

琉球大学学術リポジトリ

1960年1月の安保条約改定時の朝鮮半島有事の際の 戦闘作戦行動に関する「密約」に係る調査関連文書 No.4

メタデータ	言語: 出版者: 公開日: 2019-02-15 キーワード (Ja): 朝鮮半島有事, ロジャース国務長官 キーワード (En): 作成者: メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/20.500.12000/43880

C

C



136

「本土並み」について

(1) 「本土並み」の主張は、(a) 核持込みに対する国民感情の反撥、
 (b) 自由出撃は日本を戦争に引き込むという考え方、(c) 沖縄を本
 土と差別してはならないという主張、等を主たる根拠としてい
 ると思われる。

(2) この主張はさらに対米交渉は「本土並み」をもつてわが方の
 出発点とすべしとの主張を包含することは当然であるが、これ
 は交渉は須く最大限を目標にして出発すべく、仮に最大限が獲
 られなかつたとしても、最大限を目標に努力したということである。

無期限
 8号の内
 1号

その結果が受諾し易くなるという考え方であると思われる。

「返還交渉における「基地」の地位」について

(1) 米國が日本を含む極東の平和と安全維持という観点から、純
 軍事的には基地の「現状どまり」を最も望ましいとするのは見
 易き理である。これに対してわが方の主張は、前記のとおり、
 専ら政治的な理由からする「本土並み」である。

(2) 不幸にして返還交渉は「米國の主張する現状どまり」に対し
 て、わが方が「本土並み」を要求するという形でとり上げられ
 従つて基地の「現状どまり」に対するなんらかの修正は米側の
 義務であり、わが方がかちうべき交渉上の成果であるというよ
 うに受取られているようである。

(4) 政府は従来より沖縄が日本を含む極東の平和と安全のため重要な役割りを果しているという認識を繰返し明らかにしており、返還後の沖縄の基地も、その必要な役割りを果せなければならず、返還されてはならないという立場を公に示している。ただし、返還後の沖縄が日本を含む極東の平和と安全維持に必要な機能を引継ぎ果しうるといふことが、日本自身の国益の命ずるところであり、従つて、仮に日本を含む極東の平和と安全のため基地が「本土並み」以上の地位であることをより有利とし、なほしは必要とするといふことであるならば、そのよりな「本土並み」以上の地位は、むしろわが方からこれを米側に求めて納得させるべき事柄であり、米側がわが方の要求を無視した結果である

という性質のものではなから、象徴すれば、客観的に日本を含む極東の平和と安全維持のため沖縄の基地は「本土並み」で十分であり、「本土並み」以上は逆に日本にとって有害であることが明らかであるにも拘らず、米側がなんらかの理由により「現状どおり」ないし「本土並み」以上を主張して譲らなからいふ場合のみ、交渉は前記の内容のとき要求と譲歩の関係をなすのである。

他、わが方、米側、1950年

返還交渉に於けるわが方の立場を固めることについて
(4) 事柄右のごとくであるとすれば、わが方として、わが方の立場からみて基地の地位はいかであるべきかの判断が必要である。しかるに、日本を含む極東の平和と安全維持のため、純軍事的

的に基地の地位が如何にかにあるべきかの問題は、現実に軍事的抑止力の主体を担っている米国の判断にまつべきところが大きく、わが方の見解は公平にみて評論家流の見解を出せることは容易でなす。

何 他方前記「何」の「本土並み」の主張の根拠はいずれも感情的な、政治的であり、軍事的な、安全保障確保の方法としての判断に基づくものではない。従つて仮にこのような主張のみで交渉に立向つて、米側から日本側の安全保障に対する見解いかんと置かれる場合に、「本土並み」以上の取決めを行なえば、内政上の混乱より基地の機能が妨げられるとか、ひいては基本的に日米関係に支障を及ぼす等の危険を指摘するとしても、多

かれ少なかれ米側からみたわが方の防衛姿勢に疑点を残す危険を免れないであろう。

ウ さらに日本を含む極東の現在の平和と安全は力の関係の上に成立つており、一方の力を弱めれば他方もこれに応じて後退するといふことではなく、逆に一方の後退は他方の進出を意味するといふ関係にある。沖縄基地の現状の修正は、このような力の関係にいかなる影響を与えるかといふ点について日米間に十分の意思疎通を図る必要がある。すなわち、現状の修正により抑止力として純軍事的に弱化するといふことは、相手方にとつてはいわば思ひ盡であり、従つて日米間においては、何故に弱化するも差支えないか、あるいは弱化することをなすに及ばず

て補償しうるか、という問題について今後に誤解を醸してはならぬのである。

四 返還交渉の進め方について

(1) 返還交渉を進めるに當つては、前記の諸点を十分考慮しつつ、具体的な話の進め方としては、次の諸項目についてわが方の見解を説くこととしてはいかかと思われる。

(2) 施設種返還を實現することが日米関係全般からみて必要な時期にきていること。

(3) 返還後の沖縄に常時核が設置されていふといふことは、わが方として受難困難なること。(従つて、返還實現の際には沖縄に核は現に設置されていふといふことをなんらかの形

五 明らかにすること(一)

(1) 朝鮮半島等にかつて事變勃発し、沖縄より出撃を要するとき事變にかつては、わが方も米軍の出撃を認める政治的責任をとる用意あること。

(2) 補給・通信等の面における沖縄基地の機能達成について、わが方は十分な支持を与えること。

(3) 沖縄自体の防衛についてわが方は責任を負うこと。

(4) 関東諸地域の平和と安全のため、わが方は種々の分野にかつて積極的に貢献すること。

五 「本土並み」をもつて交渉の出発点とするや否やの問題は、

前記のとおり実質的に意味のある問題ではなからぬので、仮に右の

以上は現行憲法に基いての事だ。近頃
其の如何なる方針で進めようか。

この諸君のついでに聯合を行なう場合、国内に於いてはかな
る説明を要するや否やは別途考慮することとする。

以上の他、swedish には
他に、 2×2 、 3×3
も有り。(意味不明?)

244 - advice?
B-17?